



畜産総合センターようゝん通信

平成 30 年 5 月

○豚枝肉の見方について

近年は、輸入品との差別化やブランド化に取り組まれる方も多く、小売店や食肉卸などの流通業者からの豚肉品質向上への期待も一層高まっています。本県においても、斉一性の高い系統豚の供給と新たなデュロック種の開発により、品質の安定及び向上を図っているところです。

このような中、各市場で開催される枝肉共励会への参加など、皆様におかれましても、自農場の枝肉品質の向上を目的として出荷した枝肉を確認することがあるかと思えます。そこで、今回は豚枝肉の基本的な見方について御紹介します。（但し、流通業者によって観点が異なる場合もあります）

※参考：公益社団法人日本食肉格付協会HP（画像引用）

・ 枝肉の形状

…腰がくびれておらず、長方形のものが好まれる。全体として厚くて肉量が多そうなものがよい。

・ 皮下脂肪の厚さ

…厚すぎる脂肪は精肉から除去することになるので一般的には好まれないが、他の形質が十分に優れていれば、高単価で取引されることもある。

・ モモ張り

…張りがあるものの方がよい。肉色の判定はモモで行い、一般的には色が濃すぎるものは好まれない。

・ 肋骨の深み

…肋骨のカーブが深いものの方がロースは大きいことが予想され、好まれやすい。

肋骨の深みは、こぶしを入れて他の枝肉と比較し確認する。



・ 脂のかたさ

…柔らかすぎるものは好まれない。整形・流通時に形が崩れやすいため。

・ 肉のしまり

…同上の理由で柔らかいものは好まれない。硬いものについても好まれない。

・ ドリップの有無

…ドリップが出るものは商品の劣化が早いとされ、一般的には価値が落ちやすい。枝肉の下に滴り落ちていないか等確認する。

※食肉市場（と畜場）への入退場に際しては、車両消毒、衣服の交換及び物品消毒等の防疫対策を徹底してください。

◇譲渡月齢について

系統豚を利用していただいている皆様には、日頃から譲渡調整等にご協力いただき感謝申し上げます。

さて、ご利用農家の皆様から、メスの繁殖性やオスの乗駕欲など系統豚の能力に対する様々な要望をいただいております。

当所といたしましては、系統豚の能力を最大限に発揮し、より長く供用して頂くためには、現在高齢化傾向にある譲渡月齢の適正化が一つのカギであると考えています。そこで、雌は6か月齢まで、雄は7か月齢までの譲渡を強くお勧めします。

☆種雌豚

適正月齢：6か月齢まで

理由：当所では制限給餌ができない。

→ 当所での滞在期間が長くなるほど過肥になる傾向（繁殖性への影響）

適正化のメリット：①繁殖成績の向上

②肢蹄事故や母豚ストレスによるトラブル発生等防止

☆種雄豚

適正月齢：7か月齢まで

理由：当所の飼養環境に慣れてしまう、精液性状確認時点から長期間経過

適正化のメリット：導入農家に移動した後に乗駕欲が低下することを抑制

豚房を空けることが豚の健康管理及び次の種豚生産及び譲渡待ちの解消にもつながります。

皆様のご要望にお応えするため、今年度も職員一丸となって生産してまいりますので、引続きご協力のほどよろしく願いたします。

（連絡先）

◇畜産総合センター

： 0564-21-0201

